

N SPORT

SEATING INNOVATOR

N SPORT リニア型シートレール 取り扱い説明書

はじめに

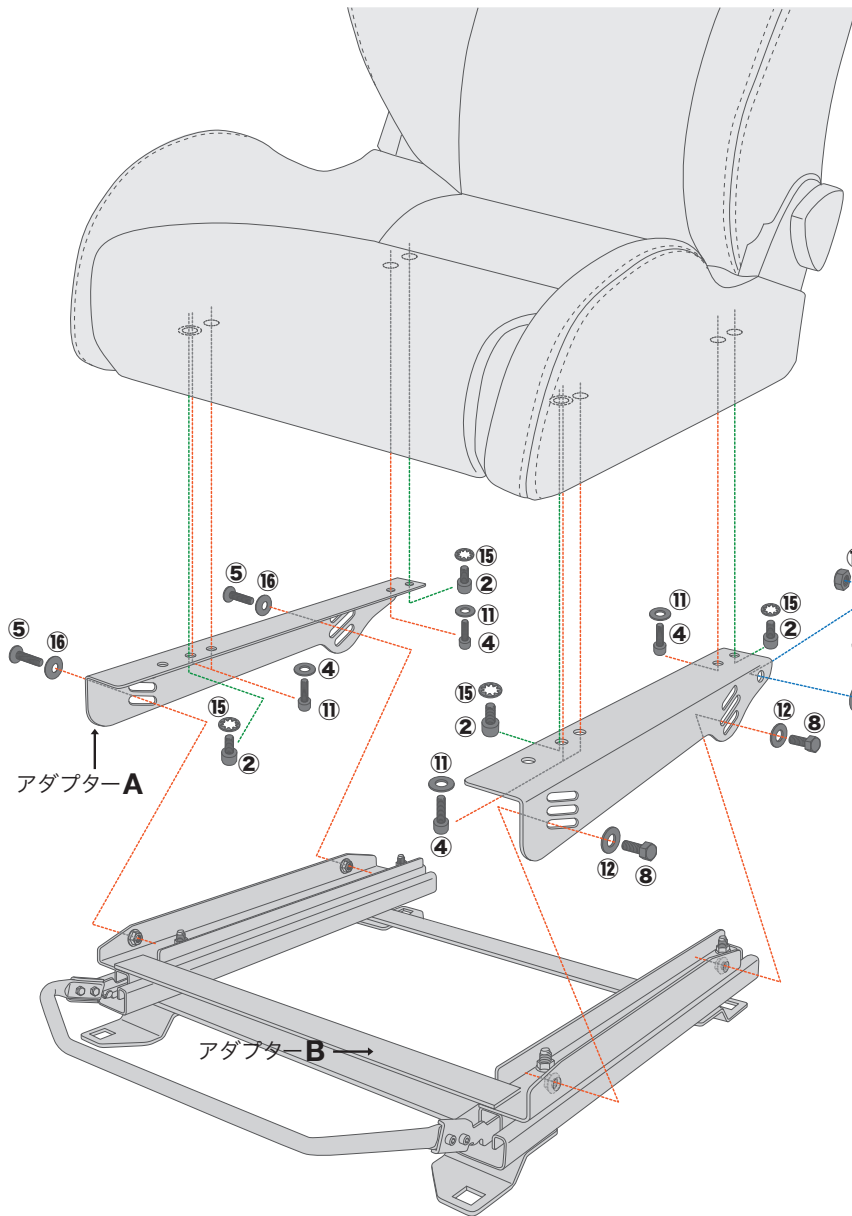
- ・この度は弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。製品をご使用いただく前に本書をお読みいただき、正しくご使用下さい。商品の仕様など予告なく変更する場合があります。その際は最新の取り扱い説明書を弊社ホームページにてご確認ください。
- ・製品は十分な検査のうえ出荷しておりますが、運送時の破損や損傷及び内容物に違いや不足がないか、取り付けの前に必ずご確認ください。万一、問題がありましたら、お買い求めいただいたお店までご連絡下さい。（製品の出荷から14日を経過した後のクレームは受け付けできません。また、車両への装着後のクレームは、日数に関わらず受け付けできませんのでご注意ください。）
- ・弊社製品を国外でご使用の場合、上記を含む一切のクレームは受け付けできません。
- ・シート内蔵型のサイドエアバッグ装着車には、サイドエアバッグキャンセラーをご使用下さい。（サイドエアバッグキャンセラーに関しましては、別紙「サイドエアバッグキャンセラー取り扱い説明書」をご参照下さい。）

安全に関するご注意

- !危険** 製品に加工または改造を施しての取り付け及びご使用は絶対にお止め下さい。
- !危険** 万一の事故などで、製品に著しい衝撃を受けた場合、破損や損傷の恐れがありますので、お買い求めいただいたお店までご連絡いただき、弊社にて製品の検査を受けるようにして下さい。
- !危険** シートレールをスライドさせる際はレバーなどで指を挟まないよう、ゆっくり可動させて下さい。特にシートレールの可動部には手を触れないよう、ご注意ください。指を詰める場合があり、極めて危険です。
- !危険** シートレールがロックされていない状態での走行は極めて危険です。シートレールがロックされているか、走行の前に必ずご確認ください。
- !危険** 思わぬ事故につながる場合がありますので、走行中はスライドレバーなどの調整機構を操作しないで下さい。
- !危険** 清掃などでシートの下に手を入れる際は、突起物に充分ご注意ください。

製品の取り扱いについて

- ・純正シートの取り外し
 - 1: 純正シートにサイドエアバッグやシートベルトプリテンショナーなどの電子制御部品が付いている場合、バッテリーのマイナス端子を外し、3分程度放電して下さい。
 - 2: 純正シートを車体に固定しているボルト（またはナット）を、メガネレンチやボックスレンチなどの適切な工具を使用して緩めます。
 - 3: 純正シート及び車体につながる配線カプラーがある場合、カプラーを外し、車内から純正シートを取り出します。この際、純正シートレールの突起物などで車体に傷がつかないように、充分ご注意ください。
 - 4: 純正シートにシートベルトキャッチが付いている場合、弊社製品に移設しますので、純正シートから取り外して下さい。その他、移設が必要な電子制御部品があれば、同様に取り外して下さい。（上記は一般的な作業手順になります。車種毎の詳しい作業手順は、自動車メーカーの整備書をご参照下さい。）
- 【取り扱い及び取り付けのポイント】**
- 1: シートレールに添付されているラベルの表記が、ご使用される車両に合致しているかをご確認ください。
 - 2: 一部のシートレールを除き、スライドレバーを引き上げるとロックが解除され、下ろすとロックが掛かります。ロック機構が正しく作動するかご確認ください。
 - 3: シート本体にシートレールを取り付ける前に、シートレール（車体取り付けフレーム）を車体のボルト固定位置に合わせて仮置きし、全ての固定位置が合うことをご確認ください。製品及び車両の個体差や、車両の経年劣化による歪みから、車体とシートレールの取り付け面に隙間が生じる場合があります。必要に応じてワッシャーなどをご使用下さい。
 - 4: 純正シートから取り外したシートベルトキャッチを、製品に付属のシートベルトアンカーボルトセットを使用し、フレームの取り付け位置に取り付けて下さい。詳しくは本書記載の「シートベルトキャッチの取り付け方」をご参照下さい。（一部の車種において、純正ボルト・ナットを流用して取り付け場合があります。）
 - 5: 必要に応じてサイドエアバッグキャンセラーの装着及び面圧センサーなどの移設を行なって下さい。面圧センサーは原則として助手席側純正シートに内蔵されており、運転席側のみ交換される場合は移設の必要はありません。また、純正シートから面圧センサーを取り出しますと、多くの場合、元の状態に戻すのが困難になります。あらかじめカーディーラーなどで、お取り寄せされることを推奨致します。
 - 6: シート本体とシートレールの取り付けに関しましては、各製品の取り付け図をご参照下さい。
 - 7: 必要に応じて電子制御部品をシートレールに固定して下さい。
 - 8: シートレールを取り付けたシートを車内へ移動します。この際、シートレールの突起物などで車体に傷がつかないように、充分ご注意ください。
 - 9: シート及び車体につながる配線カプラーを接続します。この際、シートレールをスライドさせて、配線のシートレールへの巻き込みがないことや、他の部分との引っ掛かりがないことをご確認ください。
 - 10: 車体への固定は原則として純正ボルトを流用します。シートレールのボルト固定穴は、製品及び車両の個体差や、車両の経年劣化による歪みを考慮して大きめに製作していますので、必要に応じて製品に付属のスペーサーをワッシャーとしてご使用下さい。全てのボルトを手で仮締めした後、メガネレンチやボックスレンチなどの適切な工具を使用して、確実に車体へ取り付けます。ボルトの増し締めは対角線上に行ない、締め付けトルクは自動車メーカーの整備書に従って下さい。
 - 11: 作業が完了しましたら、シートレールのロック機構が正しく作動するか、スライドレバーとシート（または車体）との干渉がないかを必ずご確認ください。シートレールはシートに対しては汎用品のため、取り付けのシートによりスライドレバーが干渉する場合があります。スライドレバーは中空アルミで製作していますので、一定程度、手で曲がります。干渉がない位置に曲げてご使用下さい。（電動ドライバーやインパクトレンチのご使用は、オーバートルクやボルトのネジ切れにつながる恐れがありますので、使用しないで下さい。）



1: 本書表紙に記載の「取り扱い及び取り付けのポイント」をご参照のうえ、作業を行って下さい。

2: (シートレール両端の)スライドレールの前後の位置が、左右でズれていないかをご確認下さい。ズれているとロック機構が正しく作動しない恐れがありますので、前後の位置を合わせて、カチッと音がするまでロックが掛かった状態にして下さい。

3: 純正シートにシートベルトキャッチが付いている場合は、アダプターAに⑱(シートベルトアンカーボルトセット)を用いて移設します。左図及び本書記載の「シートベルトキャッチの取り付け方」をご参照下さい。

※ボルトの長さが足りないなど、一部の車種において、純正ボルトを流用して取り付ける場合があります。

4: シート本体のボルト固定穴にアダプターAを仮どめします。M8ボルト4箇所どめのシートには、②(M8×20mmキャップボルト)と⑮(8mm内歯座金)を、M6ボルト6箇所どめのシートには、④(M6×20mmキャップボルト)と⑪(M6平ワッシャー)を使用します。

※パワー・ハイト・アジャスターを除くレカロAM19(SPORT・STYLE)シリーズを取り付ける場合は、底突き防止に別途ワッシャーをご用意のうえ、②(M8×20mmキャップボルト)に併用して下さい。

※ブリッド・コブラ・スパルコなど、取り付けピッチ変換アダプターを使用する場合は、別紙「取り付けピッチ変換アダプター取り扱い説明書」をご参照下さい。

5: アダプターAとアダプターBを、前方・後方ともに任意のポジションで仮どめします。センターコンソール側は⑧(M8×20mm六角ボルト)と⑫(M8平ワッシャー)を、ドア側には⑤(M8×20mm皿キャップボルト)と⑯(8mmローゼットワッシャー)を使用します。

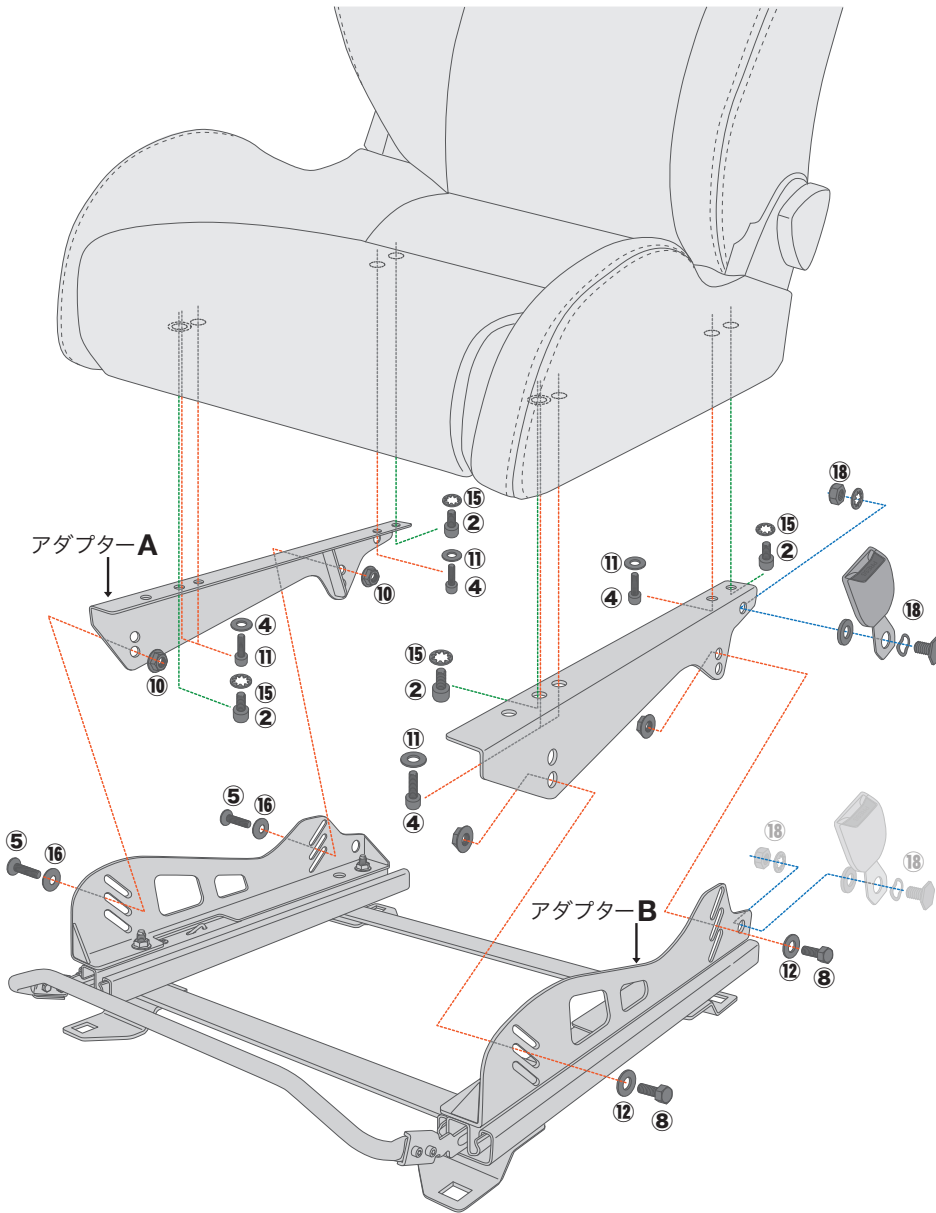
6: 仮どめたボルトを、対角線上に均等なトルク(M6=9.2N・m、M8=22.5N・m)で増し締めします。この際、シート本体とアダプターA、アダプターAとアダプターB、アダプターBとスライドレールの順番に増し締めして下さい。正しい順番、均等なトルクで固定できていない場合、スライド不良の原因となりますのでご注意ください。

※ポジションにより、シート本体とアダプターAを取り付けるボルトが増し締めできない場合は、アダプターAをシート本体に取り付けた幅が、アダプターBの幅に合うように調整してから、増し締めして下さい。アダプターAのボルト穴はシートの製品個体差を考慮して少し大きめにしています。

7: 純正ボルトを流用し、車体へ固定します。必要に応じて⑬(3.2mmスペーサー)をワッシャーとしてご使用下さい。

※一部の車種において、純正ボルトで固定できない場合があります。そのような車種には⑲(車体固定ボルト・ワッシャー)を付属させておりますので、そちらをご使用下さい。

| | | | | | | | | | |
|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------------------|----------------------------|-----------------------|-------------------------------|---------------------------|--------------------|
| ① M8×25mm キャップボルト | ② M8×20mm キャップボルト | ③ M8×10mm キャップボルト | ④ M6×20mm キャップボルト | ⑤ M8×20mm 皿キャップボルト | ⑥ M6×20mm 皿キャップボルト | ⑦ M8×30mm 六角ボルト | ⑧ M8×20mm 六角ボルト | ⑨ M8×25mm 六角ボルト | ⑩ M8 フランジナット |
| ⑪ M6 平ワッシャー | ⑫ M8 平ワッシャー | ⑬ 3.2mm スペーサー | ⑭ 8.5mm スペーサー | ⑮ 8mm 内歯座金 | ⑯ 8mm ローゼット ワッシャー | ⑰ 6mm 皿形外歯座金 | ⑱ シートベルト アンカーボルト セット | ⑲ 車体固定 ボルト ワッシャー | ⑳ 6mm スペーサー |



- 1: 本書表紙に記載の「取り扱い及び取り付けのポイント」をご参照のうえ、作業を行って下さい。
- 2: (シートレール両端の)スライドレールの前後の位置が、左右でズれていないかをご確認下さい。ズれているとロック機構が正しく作動しない恐れがありますので、前後の位置を合わせて、カチッと音がするまでロックが掛かった状態にして下さい。
- 3: 純正シートにシートベルトキャッチが付いている場合は、アダプターA、またはアダプターBに18(シートベルトアンカーボルトセット)を用いて移設します。左図及び本書記載の「シートベルトキャッチの取り付け方」をご参照下さい。
 ※ボルトの長さが足りないなど、一部の車種において、純正ボルトを流用して取り付ける場合があります。
- 4: シート本体のボルト固定穴にアダプターAを仮止めします。M8ボルト4箇所どめのシートには、②(M8×20mmキャップボルト)と⑤(8mm内歯座金)を、M6ボルト6箇所どめのシートには、④(M6×20mmキャップボルト)と⑪(M6平ワッシャー)を使用します。
 ※パワー・ハイ・アジャスター付を除くレカロAM19(SPORT・STYLE)シリーズを取り付ける場合は、底突き防止に別途ワッシャーをご用意のうえ、②(M8×20mmキャップボルト)に併用して下さい。
 ※ブリッド・コブラ・スパルコなど、取り付けピッチ変換アダプターを使用して取り付ける場合は、別紙「取り付けピッチ変換アダプター取り扱い説明書」をご参照下さい。
- 5: アダプターAとアダプターBを、前方・後方ともに任意のポジションで仮止めします。センターコンソール側は⑧(M8×20mm六角ボルト)と⑫(M8平ワッシャー)及び⑩(M8フランジナット)を、ドア側には⑤(M8×20mm皿キャップボルト)と⑬(8mmローゼットワッシャー)及び⑩(M8フランジナット)を使用します。
- 6: 仮止めしたボルトを、対角線上に均等なトルク(M6=9.2N・m、M8=22.5N・m)で増し締めします。この際、シート本体とアダプターA、アダプターAとアダプターB、アダプターBとスライドレールの順番に増し締めして下さい。正しい順番、均等なトルクで固定できていない場合、スライド不良の原因となりますのでご注意ください。

※ポジションにより、シート本体とアダプターAを取り付けるボルトが増し締めできない場合は、アダプターAをシート本体に取り付けた幅が、アダプターBの幅に合うように調整してから、増し締めして下さい。アダプターAのボルト穴はシートの製品個体差を考慮して少し大きめにしています。

シートベルトキャッチの取り付け方

リニア型の構造上、シートに対してシートベルトキャッチの高さが低くなる場合や、高くなる場合があります。必要に応じて別途シートベルトキャッチ延長ステーをご使用下さい。

※適正な位置の場合は、使用しません。

シートベルトキャッチのツメが干渉する場合は、そのツメをカットして下さい。(ツメが無い車種もあります。)

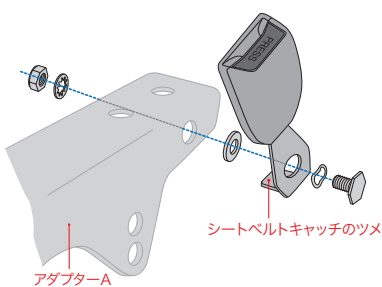
純正シートにシートベルトプリテンショナーが装備されている場合など、取り付け方及び付属品が異なる場合があります。

- 7: 純正ボルトを流用し、車体へ固定します。必要に応じて⑬(3.2mmスペーサー)をワッシャーとしてご使用下さい。

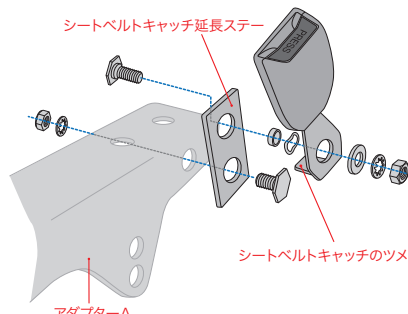
※一部の車種において、純正ボルトで固定できない場合があります。そのような車種には⑨(車体固定ボルト・ワッシャー)を付属させておりますので、そちらをご使用下さい。

シートベルトキャッチ延長ステーの取り付け方

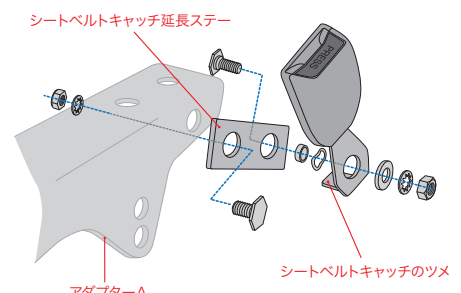
シートベルトキャッチが適正な位置の場合

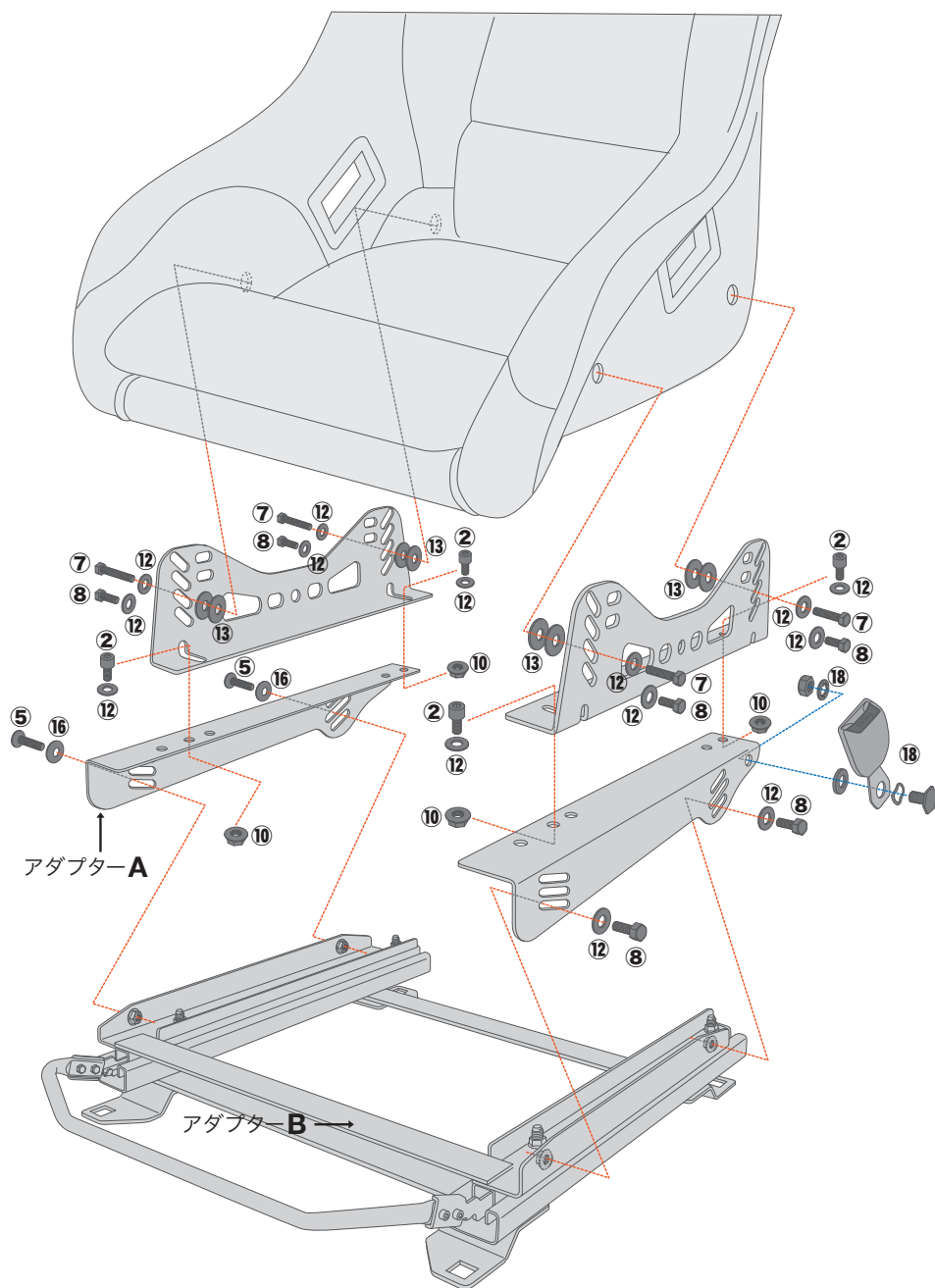


シートベルトキャッチが低い場合



シートベルトキャッチが高い場合





1: 本書表紙に記載の「取り扱い及び取り付けのポイント」をご参照のうえ、作業を行って下さい。

2: (シートレール両端の)スライドレールの前後の位置が、左右でズれていないかをご確認下さい。ズれているとロック機構が正しく作動しない恐れがありますので、前後の位置を合わせて、カチッと音がするまでロックが掛かった状態にして下さい。

3: 純正シートにシートベルトキャッチが付いている場合は、アダプターAに⑱(シートベルトアンカーボルトセット)を用いて移設します。左図及び本書記載の「シートベルトキャッチの取り付け方」をご参照下さい。

※ボルトの長さが足りないなど、一部の車種において、純正ボルトを流用して取り付ける場合があります。

4: アダプターAに、サイドステー側から②(M8×20mmキャップボルト)と⑫(M8平ワッシャー)を、アダプターA側に⑩(M8フランジナット)を使用して、サイドステーを仮どめします。サイドステーを取り付ける向きは、装着されるシートの取り付け幅や、ステアリングセンターの調整方向により異なります。本書記載の「サイドステーの取り付けについて」をご参照下さい。

5: シート本体とサイドステーを、⑦(M8×30mm六角ボルト)と⑬(3.2mmスペーサー)、または⑧(M8×20mm六角ボルト)を使用して、任意のポジションで仮どめしてから、対角線上に均等なトルク(締め付けトルクはシートメーカーの指定に準じます。)で増し締めします。使用するボルトやスペーサーの使用については、本書記載の「サイドステーの取り付けについて」をご参照下さい。続いて4で仮どめた箇所を、対角線上に均等なトルク(22.5N・m)で増し締めして下さい。

6: アダプターAとアダプターBを、前方・後方ともに任意のポジションで仮どめします。センターコンソール側は⑧(M8×20mm六角ボルト)と⑫(M8平ワッシャー)を、ドア側には⑤(M8×20mm皿キャップボルト)と⑯(8mmローゼットワッシャー)を使用します。

7: 仮どめたボルトを、対角線上に均等なトルク(22.5N・m※金属対金属の締め付けトルクです。シート本体とサイドステーの締め付けトルクはシートメーカーの指定に準じます。)で増し締めします。この際、シート本体とサイドステー、アダプターAとアダプターB、アダプターBとスライドレール、サイドステーとアダプターAの順番に増し締めして下さい。正しい順番、均等なトルクで固定できていない場合、スライド不良の原因となりますのでご注意ください。

※ポジションにより、サイドステーとアダプターAを取り付けるボルトが増し締めできない場合は、アダプターAをサイドステーに取り付けた幅が、アダプターBの幅に合うように調整してから、増し締めして下さい。

8: 純正ボルトを流用し、車体へ固定します。必要に応じて⑬(3.2mmスペーサー)をワッシャーとしてご使用下さい。

※一部の車種において、純正ボルトで固定できない場合があります。

そのような車種には⑲(車体固定ボルト・ワッシャー)を付属させておりますので、そちらをご使用下さい。

サイドステーの取り付けについて

装着されるシートの取り付け幅に応じて、下図の向きでサイドステーを取り付けて下さい。ステアリングセンター(シート左右位置)の調整は、アダプターAとサイドステーの取り付け位置で行います。

ベルトホルのグロメットとサイドステーが干渉し、シート本体とサイドステーの間に隙間が生じる場合は、⑬(3.2mmスペーサー)をご使用下さい。使用する個数は隙間に合わせて調整して下さい。また、干渉物が無くても、装着されるシートの取り付け幅により、隙間が生じる場合があります。その際は、同様に⑬(3.2mmスペーサー)をご使用下さい。

⑬(3.2mmスペーサー)を使用する場合は⑦(M8×30mm六角ボルト)を使用しない場合は⑧(M8×20mm六角ボルト)をご使用下さい。

